

2005年3月7日

**基礎水理部会分科会「粘着性材料の浸食特性と流砂モデル」第2回研究集会  
－粘着性土の浸食機構に関するシンポジウム－**

分科会世話人  
早稲田大学 関根正人

日時：2004年12月10日（金）13:00～18:00

場所：土木学会本館2階講堂（東京都新宿区四谷1丁目無番地）

参加者：約50名

**趣旨：**粘着性土の浸食機構に関しては、古くから問題意識を持たれてきていますが、未だに十分な理解が得られていないというのが現状です。これは、粘土が発揮する電気化学的な力（すなわち粘着力）の発現機構が複雑であることなどが原因と考えられ、非粘着性土の砂礫の流砂機構が概ね理解されつつあることに比べると、この研究の立ち遅れがなお一層際立ったものに見えます。これには、わが国の河川について考える限り、その治水上の問題に粘着性土が大きな影響を及ぼしているとは考えられないとする工学的判断が深く関わっているようにも思われます。しかし、今日、河川や湖沼の環境に目を向ける余裕も生まれ、自然豊かな河川の整備が指向されるようになっておりますので、粘着性土の浸食機構についての理解はこれまでも増して求められるようになるものと考えます。こうしたことを背景として、最近10年間ほどの期間に各方面から粘着性土に関わる研究が進められてきています。しかし、学会におけるセッション分けという障壁があるために、関連する研究に従事している研究者や関心を持つ方々が一堂に会して意見交換を行う機会はほとんどありませんでした。

こうしたことに鑑み、土木学会水工学委員会基礎水理部会の中に「粘着性材料の浸食特性と流砂モデル」に関する研究分科会が組織されることになりました。その目的は、このテーマに関するこれまでの研究をレビューすること、具体的に進められている研究についての意見交換をすること、さらには今後の方向性を模索すること、などであります。本シンポジウムは、この分科会活動の一環として行われるものであり、一昨年秋に行われた第一回シンポジウムに続く企画であります。今回は、板倉忠興先生に特別講演をお願いしておりますほか、合計6名の話題提供者から貴重な講演を戴きます。このテーマに関心をもつできるだけ多くの方々の参加を得て、活発な議論が展開されることを願っております。そして、この機会が今後に向けて意義ある一歩となれば幸いです。

プログラム：別紙参照。

基礎水理部会分科会「粘着性材料の浸食特性と流砂モデル」第2回研究集会

－ 粘着性土の浸食機構に関するシンポジウム －

日時：2004年12月10日（金）13:00～18:00

場所：土木学会本館2階講堂（東京都新宿区四谷1丁目無番地）

プログラム

- 13:00～13:10 関根正人（早稲田大学，分科会世話人）  
「シンポジウム開催の趣旨説明・問題提起」
- 13:10～14:10 板倉忠興（北海道大学名誉教授，（株）リブテック）  
特別講演「粘着性土河床の洗掘」
- 14:10～14:20  
休憩（10分）
- 14:20～14:50 関根正人，西森研一郎（早稲田大学）  
「粘着性土の浸食速度とその進行過程に関する実験的研究」
- 14:50～15:20 末次忠司，板垣 修（国総研）  
「堤防・河岸の侵食実態と侵食対策」
- 15:20～15:50 新井宗之，田原伸彦（名城大学）  
「粘性土石流の発生機構に関する一考察」
- 15:50～16:20 中野 晋（徳島大学）  
「粒子間応力に基づく底泥の降伏値と移動限界の評価」
- 16:20～16:30  
休憩 10分
- 16:30～17:00 瀧 和夫（千葉工業大学）  
「流水現象から見た粘性堆積土の特徴」
- 17:00～17:30 梅田 信（ダム水源地センター），石川忠晴，高峰一（東京工業大学）  
「震ヶ浦流体泥の洗掘特性に関する実験的研究」
- 17:30～17:45 江頭進治（立命館大学）  
「総括1」
- 17:45～18:00 藤田裕一郎（岐阜大学，前々基礎水理部会長）  
「総括2・閉会の挨拶」